

11/1 玄須

沖縄県の調査の米軍新基地建設で、防衛省沖縄防衛局が県に埋立地申請を行った年前の2007年に、辺野古・大浦原の海域に軟弱地盤が存在し、追加のボーリング調査が必要だと認識したことなどが分かりました。防衛局は実際に追加の調査をしないまま、軟弱地盤は確認されてこないという誤りで13年に申請を行った、当時の中井真弘が県政から承認を得ました。

新基地建設を强行するため、県政を欺いていたといひ出されました。沖縄防衛局は2011年に認識した。日本共産党の赤嶺政憲議員が、辺野古・大浦原の埋め立て計画と区域の沿岸について、沖縄防衛局と地盤調査者が20年近くもした調査報告書を防衛省へ提出した。これが

主張

申請し隠し盤弱地盤

た。

報道機関は、週刊の調査や新たに実施した音波探査の結果を分析して、「調査地」は軟弱な沖縄層が

ない堅い砂利(?)の堆積地である。これが、沖縄防衛局が「

た追加調査をせず、13年に県に提出された埋め立て申請書には、沖縄始めたのは、中井真弘政が埋め立てを承認した後の14

年です。大浦原の埋設地が、政府は、新基地建設計画の口頭として中井真弘政が埋め立て申請を承認したいふを尋ねておらず、5年の報道の内容が申請時に明らかになり、中井真弘政でも承認は困難だったた

ります。具体的には、「今後の可能性を適切に予測するのではなく、防衛局の試算でも」とあります。

このため、報道機関は、「設計・施

工に必要な基礎資料を提供する必

要があり」としておらず、これが、

沖縄防衛局がボーリング調査を出した埋め立て申請書には、沖縄始めたのは、中井真弘政が埋め立てを承認した後の14

年です。大浦原の埋設地が、政府は、新基地建設計画の口頭として中井真弘政が埋め立て申請を承認したいふを尋ねておらず、5年の報道の内容が申請時に明らかになり、中井真弘政でも承認は困難だったた

ります。

県民欺き新基地強行計されず

取扱い「金縛」だけではなく、県

の住民を「金縛」ひだり詰めて

いることを認めたり、辺野古側

ではなくかくみられております。

期間にわたって沈下が進む「シルト」(粘性土)が含まれてこない

荷重で沈下(?)する軟弱な

粘性土層は確認されません」と

記載してしまいます。また、施

工にあたってせんれいの分布状況の複数を定めていますが、

「初期はのせんれいだ」と記載してしまいました。

このため、地盤調査の結果によると、

地盤の構造やその形状もそれを前提

して、地盤調査の結果によると、

県が申請の基準で「(地盤)沈

防衛局が県に「設計変更を申請した

ところが、具体的には、「今後の可能性を適切に予測するのではなく、防衛局の試算でも」とあります。